

## II. 調查報告

---

## **(1) 障害児・者のスポーツライフに関する調査**

---

## 主な調査結果

### **障害児・者の44.4%が過去1年間に何らかのスポーツ・レクリエーションを実施**

7歳以上の障害児・者の44.4%が、過去1年間に何らかのスポーツ・レクリエーションを実施していた。障害種別では、聴覚障害、知的障害、発達障害では、50%以上が年1回以上スポーツ・レクリエーションを実施しているのに対し、肢体不自由では30%程度であった。【図表 1-16、1-17】

### **過去1年間に実施したスポーツ・レクリエーションの上位種目は、7～19歳が散歩、体操、水泳、成人が散歩、ウォーキング、体操**

過去1年間にスポーツ・レクリエーションを実施した人が行った種目は、障害種別、障害の程度に関係なく、7～19歳では「散歩(ぶらぶら歩き)」「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」「水泳」、成人では「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」が多い。特徴的な結果として、7～19歳では「水泳」の実施率が高かった。【図表 1-23、1-24】

### **スポーツ・レクリエーションを行う主な目的は、健康の維持・増進のため**

スポーツ・レクリエーションは、主に「健康の維持・増進のため」「気分転換・ストレス解消のため」「楽しむため」を目的に実施されている。肢体不自由では「リハビリテーションの一環として」実施している人が多く、障害種別に起因する特徴的な結果といえる。【図表 1-29、1-30】

### **半数の障害者が障害のない人と一緒にスポーツ・レクリエーションを実施**

指導者や介助者をのぞく障害のない人と一緒にスポーツ・レクリエーションを実施していた人は51.5%であった。障害種別にみると、聴覚障害、視覚障害、発達障害では障害のない人と一緒にスポーツ・レクリエーションを実施している割合が高く、肢体不自由(車椅子必要)、知的障害では、実施している割合が低く、4割以下であった。障害のない人と一緒にスポーツ・レクリエーションを実施している人の多くは、友人、スポーツクラブやサークルなどの仲間、家族と実施している傾向がみられる。【図表 1-33、1-34、1-35】

### **スポーツ・レクリエーションの実施における障壁は体力、金銭的な余裕、時間**

スポーツ・レクリエーションの実施において障壁になっているものは、「体力がない」「金銭的な余裕がない」「時間がない」であった。また、現在のスポーツ・レクリエーションの取り組みに対して、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」との回答が48.7%を占めており、障害児・者本人の興味・関心を高めることが大きな課題である。一方で、交通手段の問題、どこでどんなスポーツ・レクリエーションができるのかといった情報の問題も挙げられた。【図表 1-36、1-39】

### **今後行いたいスポーツ・レクリエーション種目は、ウォーキング、散歩、筋力トレーニング**

現在のスポーツ・レクリエーションの取り組み状況に対して満足している障害児・者は14.6%に留まり、スポーツ・レクリエーションをもっと行いたい、行ってみたいとの意識を持つ人は36.7%であった。今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション(現在行っている種目を含む)は、「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」「筋力トレーニング」であり、軽い運動の実施に対するニーズが高い。【図表 1-36、1-42】

## 1. 調査概要

### 1. 1 調査目的

本調査は、全国の障害児・者のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況やニーズを把握し、今後の障害児・者へのスポーツ環境の提供に関する基礎情報を得ることを目的とする。

### 1. 2 調査方法および回収結果

#### (1) 調査方法

無記名式のインターネット調査

#### (2) 調査内容

主な調査項目は、以下のとおりである。

- ・障害児・者の基本情報(障害の種類、障害者手帳の保有状況など)
- ・障害福祉サービスの利用状況
- ・外出を伴う余暇活動の有無
- ・スポーツ・レクリエーションの実施状況(実施種目、頻度、目的など)
- ・スポーツ・レクリエーションの実施における障壁
- ・今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション

#### (3) 調査対象および回収結果

インターネット調査会社が保有するリサーチモニターのうち、以下に該当する者を調査対象とした。

- ・障害児・者本人あるいは同居する家族で障害児・者がいる
- ・障害児がいる場合、7歳以上である

該当する回答者は4,268人であった。その属性は以下のとおりである(図表1-1、図表1-2、図表1-3)。兄弟、姉妹、第2子以降の子で障害児・者が複数いる場合は、それぞれ年齢が一番上の者についてのみ、回答を依頼した。その結果、回答者本人および同居する家族内の障害児・者を含めた障害児・者の標本の総数は5,381人であった。

図表 1-1 回答者の居住地

(N=4,268)

	%
北海道地方	6.1
東北地方	5.8
関東地方	33.9
中部地方	19.4
近畿地方	19.0
中国地方	5.6
四国地方	2.6
九州・沖縄地方	7.6

図表 1-2 回答者の年齢

(N=4,268)

年齢	%
19 歳以下	0.4
20～29 歳	6.7
30～39 歳	18.7
40～49 歳	32.9
50～64 歳	35.1
65～74 歳	5.2
75 歳以上	1.0

図表 1-3 回答者の性別

(N=4,268)

性別	%
男性	57.2
女性	42.8

(4) 調査期間

2013 年 11 月 1 日～2013 年 11 月 15 日

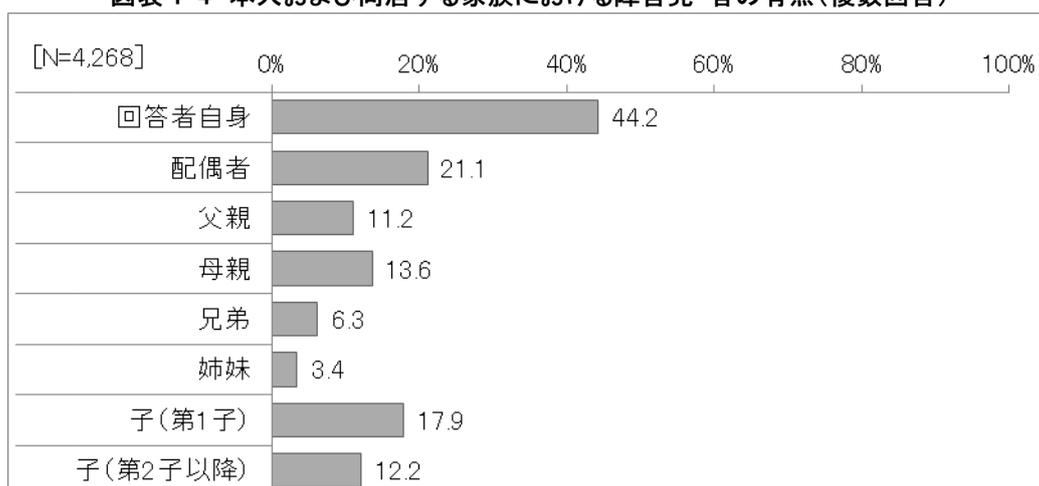
## 2. 調査結果

### 2.1 障害児・者の属性

#### (1) 本人および同居する家族における障害児・者の有無

回答者本人および同居する家族に障害児・者がいるかどうかについて、「回答者自身」(44.2%)が最も多く、次いで「配偶者」(21.1%)、「子(第1子)」(17.9%)であった(図表 1-4)。

図表 1-4 本人および同居する家族における障害児・者の有無(複数回答)

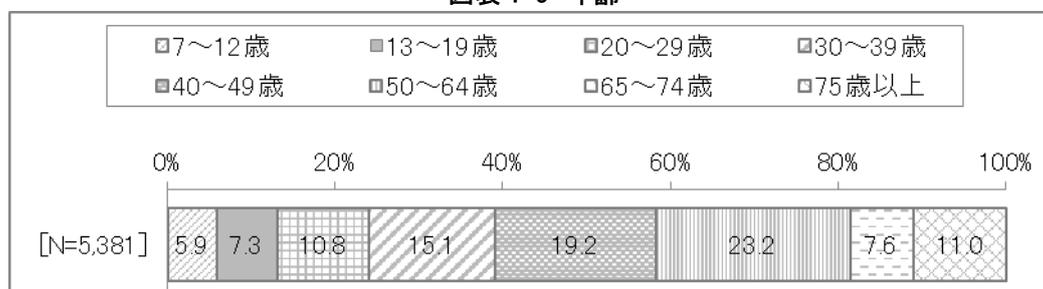


以後の報告では、障害児・者本人および同居する障害児・者 5,381 人に関する回答結果を示す。

#### (2) 年齢

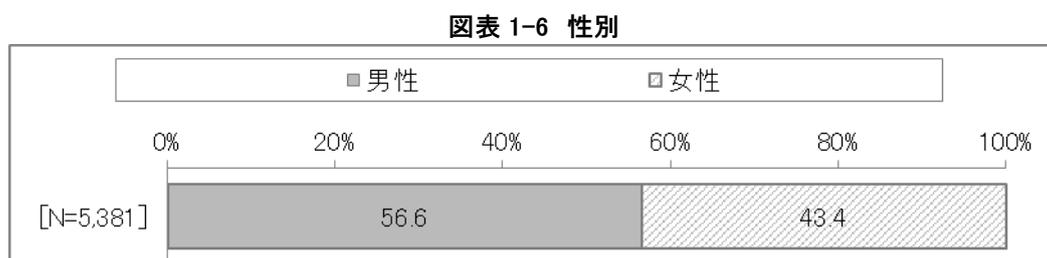
年齢は、7～19歳が13.2%、20～64歳が68.3%、65歳以上が18.6%であった(図表 1-5)。総務省の人口統計(2012年10月1日)では、7～19歳が11.9%、20～64歳が58.1%、65歳以上が24.1%であった。本調査の障害児・者の年齢分布は、国民全体と比べると生産年齢の割合がやや高いことがわかる。

図表 1-5 年齢



### (3) 性別

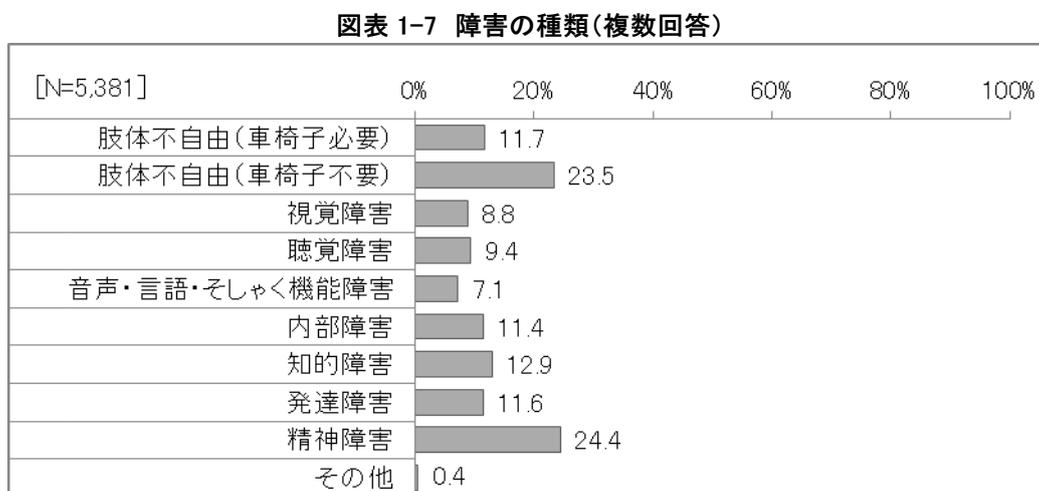
性別は、男性が 56.6%、女性が 43.4%であり、男性の方が多い結果であった(図表 1-6)。



### (4) 障害の種類

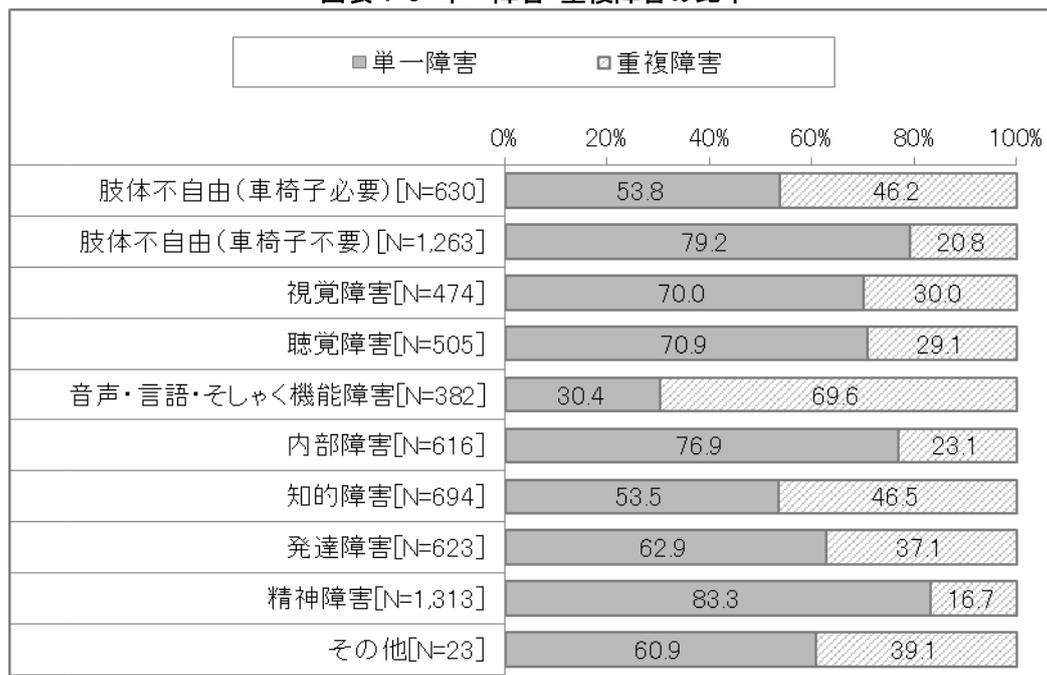
障害の種類は、「肢体不自由」が最も多く、日常生活で車椅子を必要とする人(11.7%)と必要としない人(23.5%)を合わせると、回答者の 3 分の 1 を占めた。以下、「精神障害」(24.4%)、「知的障害」(12.9%)、「発達障害」(11.6%)の順となっている(図表 1-7)。内閣府「障害者白書」(2013)によると、わが国の身体障害児・者は約 366 万 3,000 人(総人口の 2.9%)、知的障害児・者は約 54 万 7,000 人(総人口の 0.4%)、精神障害児・者は約 320 万 1,000 人(総人口の 2.5%)となっている。本調査では、身体障害、知的障害の出現率が高くなっている。

重複障害の割合を障害種別にみると、「音声・言語・そしゃく機能障害」が 69.6%と最も高く、「知的障害」「肢体不自由(車椅子必要)」でも、他の障害種に比べて重複障害の割合が高い傾向がみられた(図表 1-8)。



注)車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

図表 1-8 単一障害・重複障害の比率



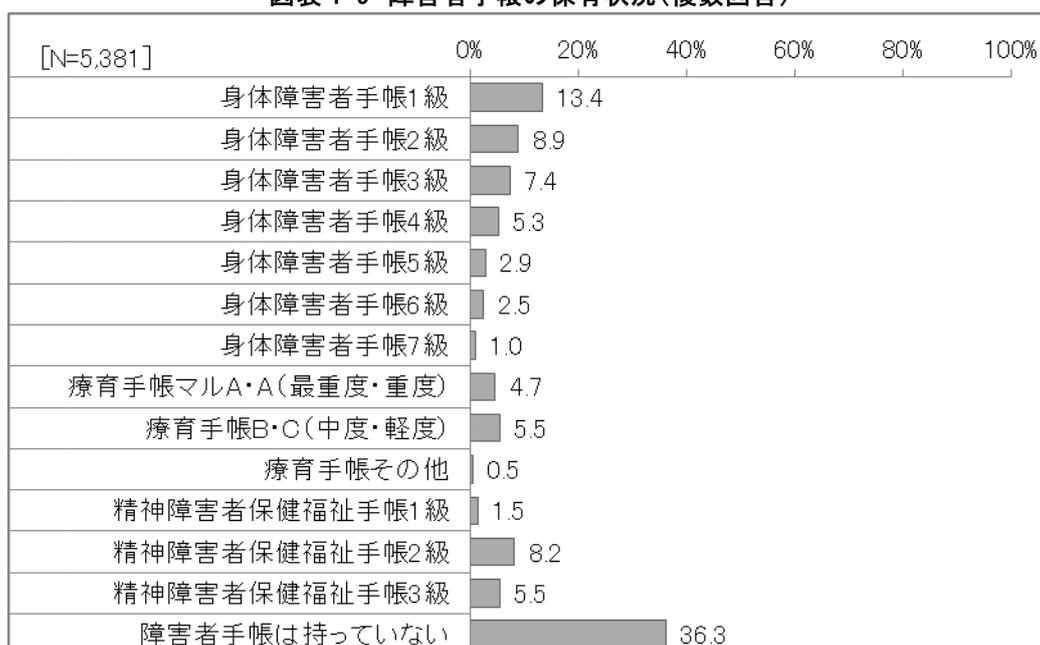
注)車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

#### (5) 障害者手帳の保有状況について

障害者手帳の保有状況について、「障害者手帳は持っていない」が36.3%であった。障害者手帳を持っている人の中では、「身体障害者手帳1級」(13.4%)が最も多く、次いで、「身体障害者手帳2級」(8.9%)、「精神障害者保健福祉手帳2級」(8.2%)であった(図表 1-9)。身体障害者手帳では、等級が高いほど保有率が高い傾向がみられた。

障害種別の障害者手帳の保有状況からは、重複して手帳を保持していることが分かる(図表 1-10)。これは、図表 1-8 の重複障害の多さを裏付ける結果でもある。

図表 1-9 障害者手帳の保有状況(複数回答)



図表 1-10 障害者手帳の保有状況(障害種別)

(%)

	肢体不自由(車椅子必要)	肢体不自由(車椅子不要)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他(音声・言語・そしゃく機能障害や内部障害を含む)
	N=630	N=1,263	N=474	N=505	N=694	N=623	N=1,313	N=992
身体障害者手帳 1 級	41.1	8.6	17.1	10.5	13.8	3.7	2.7	38.8
身体障害者手帳 2 級	18.3	13.3	14.6	15.0	6.1	2.4	3.5	9.1
身体障害者手帳 3 級	7.0	13.3	7.8	8.1	2.9	2.6	3.1	12.1
身体障害者手帳 4 級	5.7	10.8	4.9	5.1	2.2	0.5	1.0	8.6
身体障害者手帳 5 級	3.7	7.0	5.3	3.8	1.0	0.8	0.6	2.1
身体障害者手帳 6 級	0.8	3.7	2.7	10.5	1.2	0.5	1.2	1.2
身体障害者手帳 7 級	0.8	1.4	1.7	3.8	0.6	0.6	0.7	0.5
療育手帳 マル A・A(最重度・重度)	7.3	2.1	2.5	2.2	31.4	10.6	1.2	3.6
療育手帳 B・C(中度・軽度)	0.8	1.1	0.8	2.4	30.7	20.2	2.1	2.2
療育手帳 その他	0.2	0.1	1.1	0.2	1.3	1.3	0.5	0.2
精神障害者保健福祉手帳 1 級	1.9	0.7	0.4	1.0	3.0	0.6	4.3	0.4
精神障害者保健福祉手帳 2 級	1.3	0.7	1.1	1.6	2.9	7.2	30.2	1.4
精神障害者保健福祉手帳 3 級	0.8	0.8	0.8	1.0	1.3	6.3	19.0	0.8
障害者手帳は持っていない	20.2	40.1	44.7	40.2	15.0	47.4	34.1	24.7

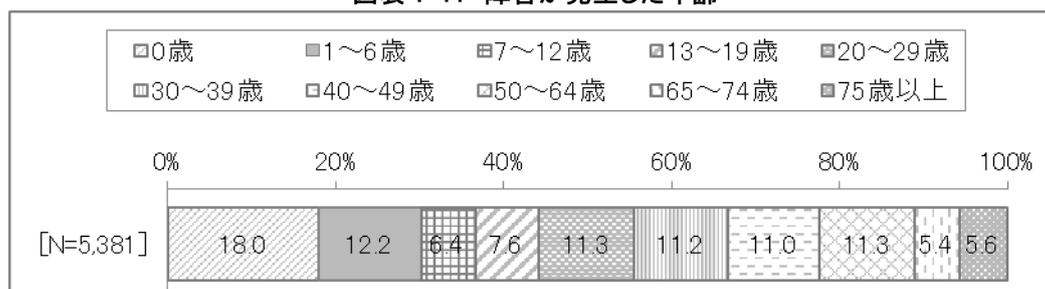
注 1) 車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

注 2) 重複障害の場合は、該当の障害種全てに標本として含む。

## (6) 障害が発生した年齢

障害が発生した年齢は、「0 歳」が 18.0%、「1～6 歳」が 12.2%で、出生前・出生時や小学校就学前が全体の 3 割を占めている(図表 1-11)。また、40 歳以降に障害が発生した人も 3 割を超えており、障害が発生した年齢は多様であることがわかる。

図表 1-11 障害が発生した年齢



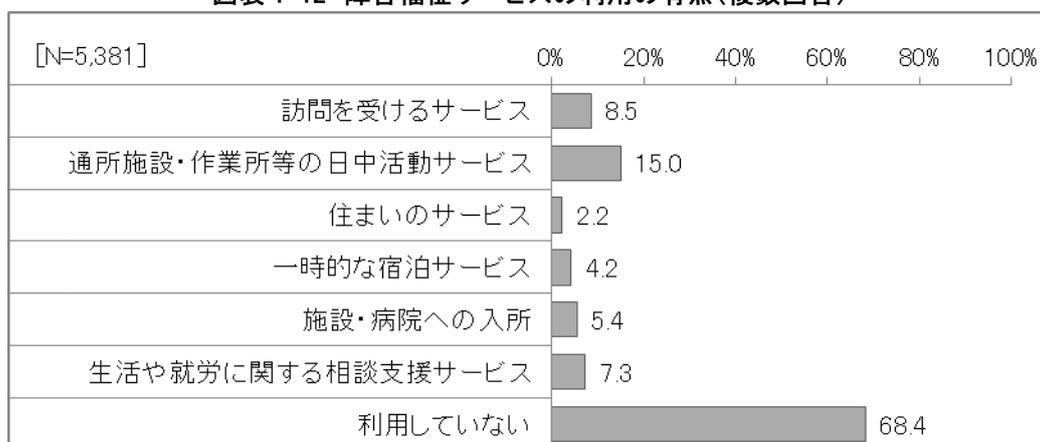
注) 複数の障害がある場合は、最初に障害が発生した年齢を回答。

## (7) 障害福祉サービスの利用の有無

障害福祉サービスの利用について、「利用していない」が 68.4%であり、利用している人の中では、「通所施設・作業所等の日中活動サービス」(15.0%)が最も多く、次いで「訪問を受けるサービス」(8.5%)、「生活や就労に関する相談支援サービス」(7.3%)であった(図表 1-12)。厚生労働省「障害福祉サービス等の利用状況について」(2013)によると、2013年11月の1ヵ月間で約69万人が障害福祉サービスを利用しており、なかでも生活介護、居宅介護、就労継続支援の利用者が多く、本調査の結果と同様の傾向を示している。

障害福祉サービスの利用状況を障害種別に見ると、「肢体不自由(車椅子必要)」と「知的障害」で利用者が多く、およそ7割の障害児・者が何らかの福祉サービスを利用している(図表 1-13)。

図表 1-12 障害福祉サービスの利用の有無(複数回答)



図表 1-13 障害福祉サービスの利用の有無(障害種別)

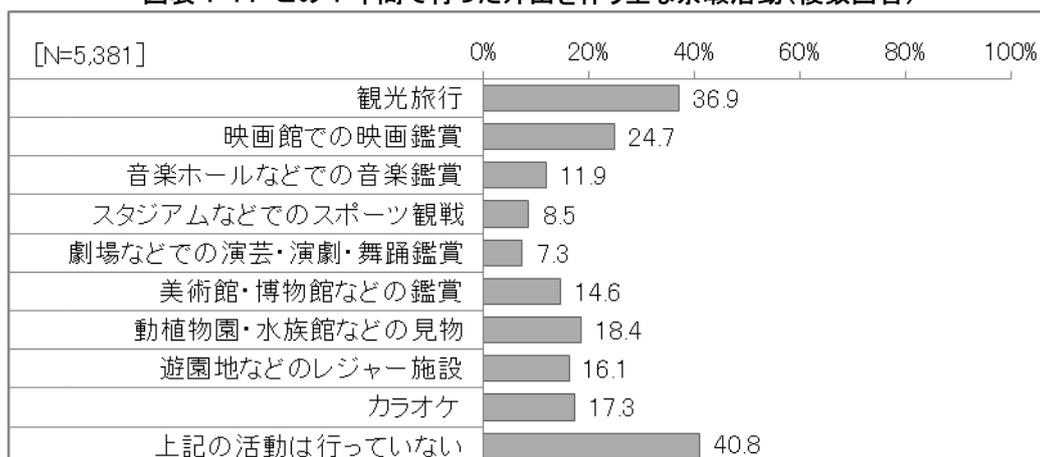
	(%)							
	肢体不自由(車椅子必要)	肢体不自由(車椅子不要)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他(音声・言語・そしゃく機能障害や内部障害を含む)
	N=630	N=1,263	N=474	N=505	N=694	N=623	N=1,313	N=992
訪問を受けるサービス	31.7	6.9	13.9	6.1	14.7	6.3	5.9	10.8
通所施設・作業所等の日中活動サービス	31.7	11.6	11.6	9.7	43.5	22.8	11.7	15.3
住まいのサービス	3.2	2.7	2.7	3.2	3.0	1.0	1.7	2.2
一時的な宿泊サービス	14.9	2.2	3.6	3.6	14.7	4.5	3.0	5.4
施設・病院への入所	21.0	2.1	5.3	5.3	11.5	4.7	5.9	7.5
生活や就労に関する相談支援サービス	5.1	4.4	5.1	4.6	15.3	15.7	10.8	4.9
利用していない	27.3	77.0	69.6	75.4	30.7	60.5	70.7	67.2

注)車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

### (8) この1年間の外出を伴う余暇活動の実施の有無

障害児・者がこの1年間に行った外出を伴う余暇活動の状況を、「観光旅行」「スタジアムなどでのスポーツ観戦」「美術館・博物館などの鑑賞」などの9項目について尋ねたところ、およそ6割の障害児・者が何らかの余暇活動を実施していた。実施者が最も多かったのは「観光旅行」(36.9%)で、次いで「映画館での映画鑑賞」(24.7%)、「動植物園・水族館などの見物」(18.4%)であった(図表 1-14)。障害種別では、知的障害、発達障害、聴覚障害は、他の障害種と比較して、外出を伴う余暇活動を実施している割合が高い傾向にあった(図表 1-15)。

図表 1-14 この1年間で行った外出を伴う主な余暇活動(複数回答)



図表 1-15 この1年間で行った外出を伴う余暇活動(障害種別)

	(% )							
	肢体不自由(車椅子必要)	肢体不自由(車椅子不要)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他(音声・言語・そしゃく機能障害や内部障害を含む)
	N=630	N=1,263	N=474	N=505	N=694	N=623	N=1,313	N=992
観光旅行	22.4	35.3	31.4	43.6	44.7	50.9	31.0	37.9
映画館での映画鑑賞	12.1	23.7	18.1	25.5	22.8	34.7	25.7	24.5
音楽ホールなどでの音楽鑑賞	7.0	13.7	11.0	10.9	12.0	14.4	11.7	11.1
スタジアムなどでのスポーツ観戦	4.9	8.6	7.2	9.5	9.8	12.2	6.9	8.0
劇場などでの演芸・演劇・舞踊鑑賞	4.0	8.2	4.9	7.7	7.8	9.8	6.3	7.7
美術館・博物館などの鑑賞	7.9	13.8	11.4	17.8	12.7	18.8	13.4	17.1
動植物園・水族館などの見物	12.7	13.3	9.9	22.0	36.5	33.2	14.5	19.5
遊園地などのレジャー施設	8.9	11.2	10.5	20.2	31.7	33.5	10.4	14.4
カラオケ	9.5	15.4	12.9	11.9	25.2	25.2	20.3	13.5
上記の活動は行っていない	57.5	45.1	49.8	35.2	30.5	24.9	42.4	42.4

注) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

## 2. 2 スポーツ・レクリエーションの実施

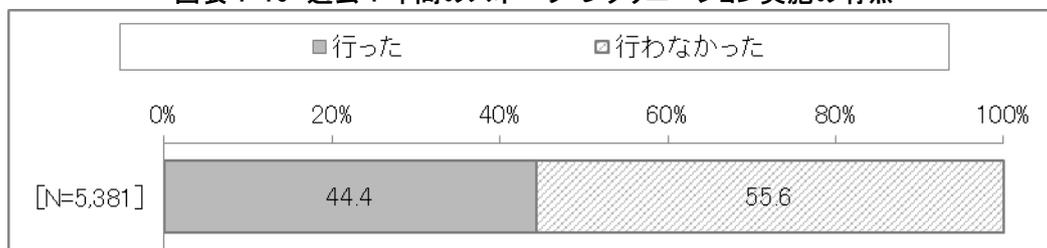
### (1) 過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無

過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施状況について尋ねたところ、「行った」が44.4%であった(図表 1-16)。笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2012)によると、成人の年1回以上の運動・スポーツ実施者の割合は74.4%となっており、障害児・者のスポーツ実施率は一般に比べて低いことがわかる。

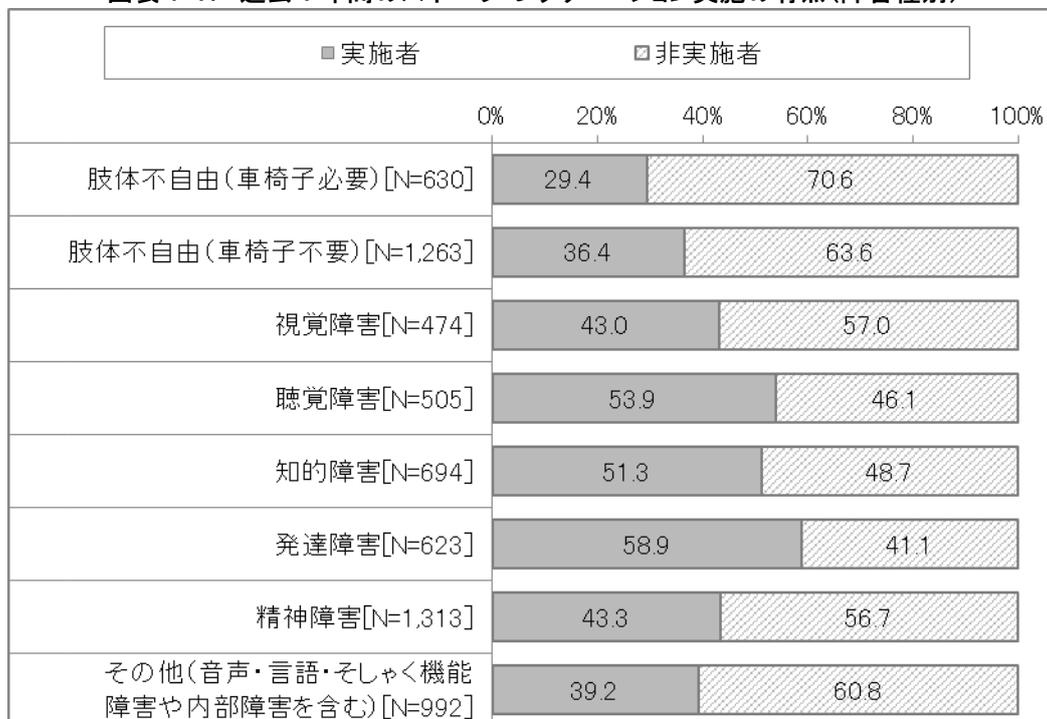
障害種別にみると、「肢体不自由(車椅子必要)」(29.4%)、「肢体不自由(車椅子不要)」(36.4%)の実施率が低い一方で、「発達障害」(58.9%)、「聴覚障害」(53.9%)、「知的障害」(51.3%)の実施率が高かった(図表 1-17)。

障害の程度別にみると、軽度の障害児・者では、スポーツ・レクリエーションの実施者が非実施者を上回るが、重度障害児・者や手帳を持っていない障害児・者では非実施者の割合が高かった(図表 1-18)。

図表 1-16 過去1年間のスポーツ・レクリエーション実施の有無

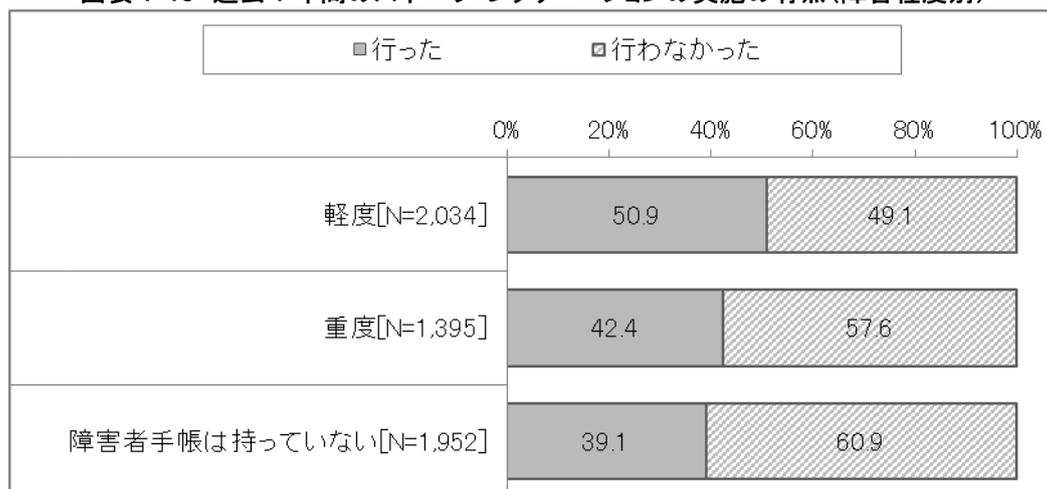


図表 1-17 過去1年間のスポーツ・レクリエーション実施の有無(障害種別)



注)車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

図表 1-18 過去 1 年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無(障害程度別)

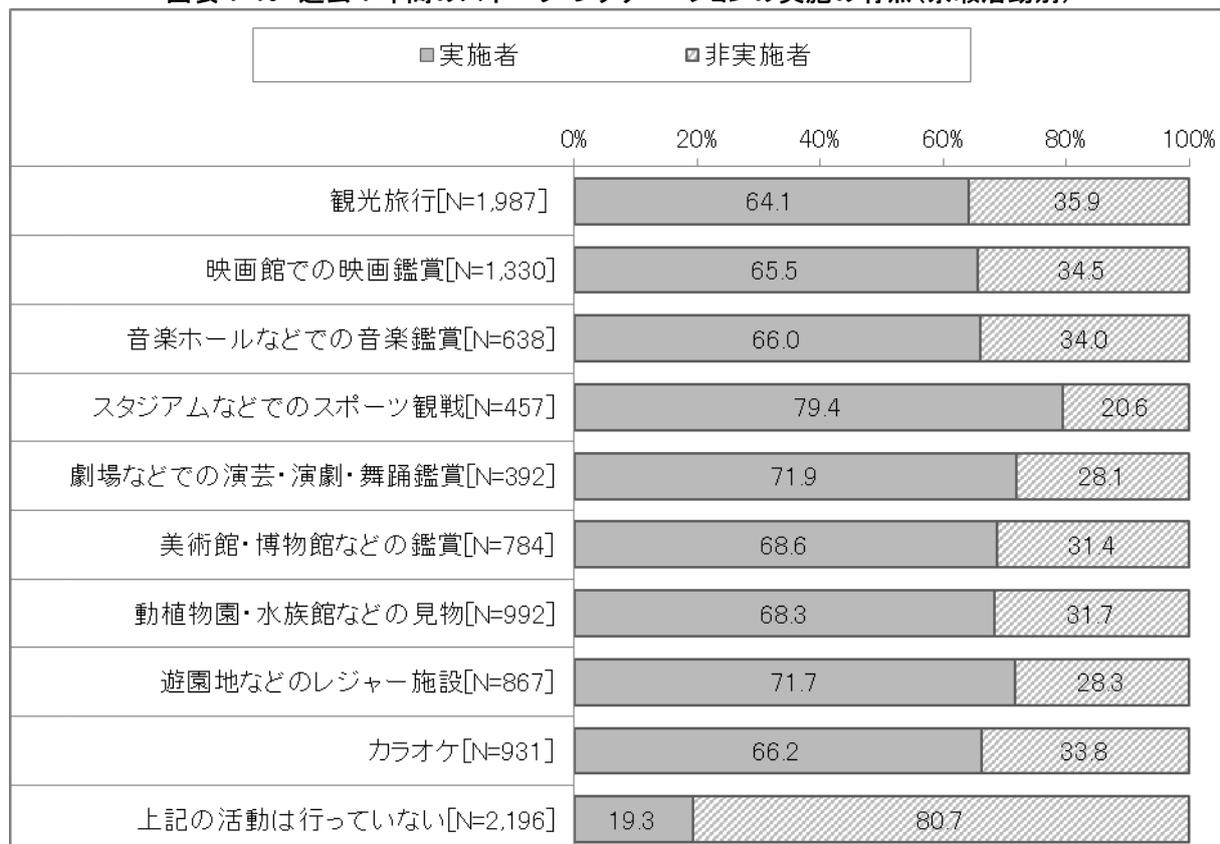


注) 重度/軽度の分類は以下のとおりである。

- ・重度: 身体障害者手帳 1 級もしくは 2 級、あるいは療育手帳マル A・A の保持者
- ・軽度: 上記以外の障害者手帳保持者

余暇活動別にスポーツ・レクリエーションの実施状況を見ると、余暇活動を実施している人は、スポーツ・レクリエーションも実施している割合が高いことがわかる(図表 1-19)。

図表 1-19 過去 1 年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無(余暇活動別)

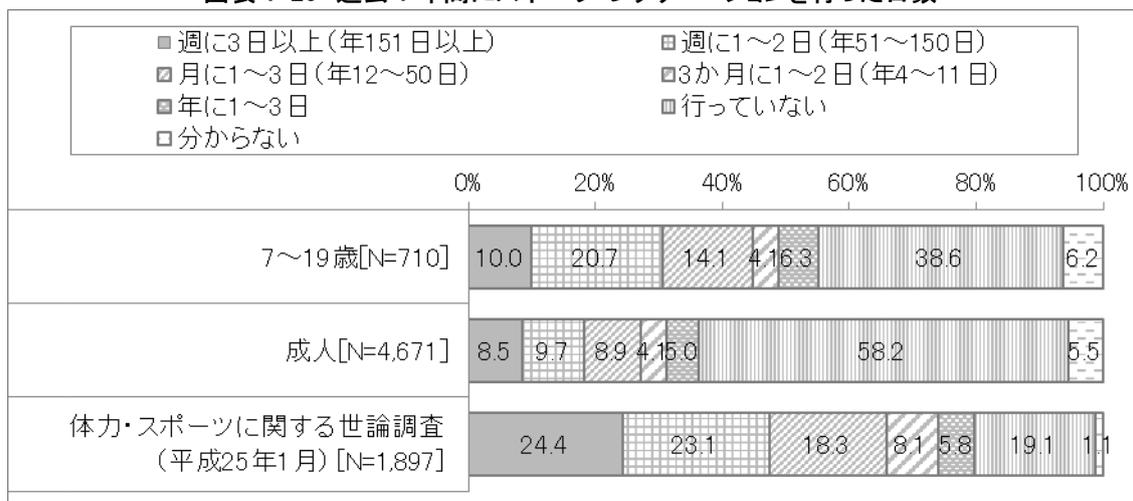


## (2) 過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数

過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数について19歳以下と成人に分けて集計した。7～19歳では、「週に3日以上」が10.0%、「週に1～2日」が20.7%と、週1日以上の実施者が3割いる一方で、「行っていない」も38.6%と多かった。成人では、「週に3日以上」と「週に1～2日」を合わせた週1日以上の実施者が2割に満たず、「行っていない」がおよそ6割を占めた(図表1-20)。文部科学省が全国の成人を対象に実施している「体力・スポーツに関する世論調査」(平成25年1月)では、週1日以上の実施者は47.5%とほぼ半数となっており、障害者の方が、スポーツ実施頻度が低いことがわかる。

障害種別に見ると、7～19歳では、「聴覚障害」「知的障害」「発達障害」で実施日数が多くなっている(図表1-21)。

図表1-20 過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数



注)文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査」(平成25年1月):全国20歳以上の日本国籍を有する者が対象。

図表 1-21 過去 1 年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数(障害種別/7~19 歳・成人別)

(%)

		週に 3 日以上 (年 151 日以上)	週に 1 ~ 2 日 (年 51 ~ 150 日)	月に 1 ~ 3 日 (年 12 ~ 50 日)	3 か月に 1 ~ 2 日 (年 4 ~ 11 日)	年に 1 ~ 3 日	行っていない	分からない
		全体	7~19 歳 [N=710]	10.0	20.7	14.1	4.1	6.3
	成人 [N=4,671]	8.5	9.7	8.9	4.1	5.0	58.2	5.5
肢体不自由(車椅子必要)	7~19 歳 [N=58]	3.4	8.6	19.0	1.7	5.2	55.2	6.9
	成人 [N=572]	6.1	5.9	4.9	3.7	3.8	72.2	3.3
肢体不自由(車椅子不要)	7~19 歳 [N=78]	3.8	15.4	7.7	1.3	0.0	64.1	7.7
	成人 [N=1185]	7.0	9.4	7.3	3.1	4.3	63.5	5.4
視覚障害	7~19 歳 [N=38]	7.9	13.2	15.8	2.6	5.3	39.5	15.8
	成人 [N=436]	8.5	10.3	7.6	5.3	5.7	58.5	4.1
聴覚障害	7~19 歳 [N=60]	15.0	18.3	21.7	5.0	3.3	31.7	5.0
	成人 [N=445]	9.0	13.5	11.0	6.5	5.6	48.1	6.3
知的障害	7~19 歳 [N=224]	9.4	25.4	14.3	5.4	6.3	34.4	4.9
	成人 [N=470]	5.7	8.7	12.8	2.1	8.1	55.5	7.0
発達障害	7~19 歳 [N=335]	11.3	25.7	13.7	5.1	9.3	31.0	3.9
	成人 [N=288]	9.0	10.1	10.4	4.5	5.6	52.8	7.6
精神障害	7~19 歳 [N=76]	7.9	9.2	7.9	7.9	5.3	53.9	7.9
	成人 [N=1237]	9.8	9.3	9.6	3.8	4.4	56.8	6.2
その他 (音声・言語・そしゃく機能障害 や内部障害を含む)	7~19 歳 [N=80]	5.0	17.5	17.5	3.8	6.3	42.5	7.5
	成人 [N=912]	8.8	9.3	8.1	3.2	4.4	62.4	3.8
体力・スポーツに関する世論調査(平成 25 年 1 月) [N=1,897]		24.4	23.1	18.3	8.1	5.8	19.1	1.1

注 1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

注 2) 文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査」(平成 25 年 1 月): 全国 20 歳以上の日本国籍を有する者が対象。

以下の(7)までの項目は、過去 1 年間に何らかのスポーツ・レクリエーションを行った 2,390 人を対象に調査を実施。

### (3) 過去 1 年間に行ったスポーツ・レクリエーション

過去 1 年間にスポーツ・レクリエーションを「行った」と回答した人が、どのようなスポーツ・レクリエーションを行ったかについて、障害種別に上位種目と一人あたりの平均実施種目数をまとめた。全体と成人では、「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」といった軽いスポーツ・レクリエーションを実施している人が多い(図表 1-22、図表 1-24)。7~19 歳では、上記の種目に加えて「水泳」の実施率が高く、「肢体不自由(車椅子不要)」「聴覚障害」「知的障害」「発達障害」では最も実施率の高い種目となっている(図表 1-23)。一人あたりの平均実施種目数については、障害種による違いがみられる。全体では「発達障害」が 3.1 種目と最も多く、「肢体不自由(車椅子必要)」は 1.5 種目と、「発達障害」の半分以下となっている(図表 1-22)。

図表 1-22 過去 1 年間に行ったスポーツ・レクリエーション(障害種別・全体・N=2,390)(複数回答)

	(車椅子必要)		(車椅子不要)		視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害		障害(音声その他を意味する内部)
	N=185	N=460	N=204	N=272					N=356	N=367	
1位	散歩(ぶらぶら歩き)	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	散歩(ぶらぶら歩き)	ウォーキング	散歩(ぶらぶら歩き)	水泳	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング
2位	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)
3位	アイススケート	水泳	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)
4位	ウォーキング	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	筋力トレーニング	筋力トレーニング	筋力トレーニング	筋力トレーニング	筋力トレーニング	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	水泳
5位	筋力トレーニング	海水浴	筋力トレーニング	筋力トレーニング	筋力トレーニング						
6位	海水浴	釣り	釣り	釣り	釣り	釣り	釣り	釣り	釣り	釣り	釣り
7位	水泳	ゴルフ(コース)	ゴルフ(コース)	ゴルフ(コース)	ゴルフ(コース)	ゴルフ(コース)	ゴルフ(コース)	なわとび	なわとび	なわとび	なわとび
8位	アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)	ゴルフ(練習場)	ゴルフ(練習場)	ゴルフ(練習場)	ゴルフ(練習場)	ゴルフ(練習場)	ゴルフ(練習場)	ハイキング	ハイキング	ハイキング	ハイキング
9位	釣り	ポウリング	ポウリング	ポウリング	ポウリング	ポウリング	ポウリング	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング
10位	ふうせんハレー	海水浴	海水浴	海水浴	海水浴	海水浴	海水浴	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング
11位	ボッチャ	アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)	アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)	アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)	アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)	アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)	アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)	サッカー	サッカー	サッカー	サッカー
12位	重いすテニス	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング	釣り	釣り	釣り	釣り
13位	卓球(サウンドテーブルテニスを含む)	登山	登山	登山	登山	登山	登山	登山	登山	登山	登山
14位	ヨーガ	テニス(硬式テニス)	ヨーガ	ヨーガ	ヨーガ	ヨーガ	ヨーガ	卓球(サウンドテーブルテニスを含む)	卓球(サウンドテーブルテニスを含む)	卓球(サウンドテーブルテニスを含む)	卓球(サウンドテーブルテニスを含む)
15位	車椅子バスケットボール	ヨーガ	アイススケート	アイススケート	アイススケート	アイススケート	アイススケート	キャッチボール	キャッチボール	キャッチボール	キャッチボール
	バドミントン	2.7									
	ポウリング										
平均実施種目数	1.5	1.9	1.9	2.4	2.5	3.1	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2

(注)車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

図表 1-23 過去 1 年間にいったスポーツ・レクリエーション(障害種別・7~19 歳・N=436) (複数回答) (%)

順位	( 車 肢 椅 体 子 不 必 自 要 由 )		( 車 肢 椅 体 子 不 自 由 )		視 覚 障 害		聴 覚 障 害		知 的 障 害		發 達 障 害		精 神 障 害		障 害 ( 障 害 を 含 む 他 の 内 部 )		ツラ少年 2 位 年 参 0 フ の 考 1 . ス 2 字 本	
	N=26	N=28	N=23	N=41	N=147	N=231	N=35	N=46	N=199									
1位	散歩(ふらふら歩き)	30.8	水泳	35.7	散歩(ふらふら歩き)	26.1	水泳	31.7	水泳	43.5	水泳	41.6	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	25.7	散歩(ふらふら歩き)	41.3	サッカー	26.9
2位	海水浴	26.9	散歩(ふらふら歩き)	28.6	海水浴	21.7	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	26.8	散歩(ふらふら歩き)	37.4	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	27.3	散歩(ふらふら歩き)	25.7	水泳	28.3	バスケットボール	23.8
3位	水泳	23.1	なわとび	25.0	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	22.0	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	22.0	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	24.5	散歩(ふらふら歩き)	25.5	水泳	22.9	海水浴	20.1	ジョギング・ランニング	23.5
4位	アクアエクスサイズ(水中歩行・運動など)	15.4	海水浴	21.4	ウォーキング	17.4	筋力トレーニング	17.1	海水浴	22.4	海水浴	22.1	ウォーキング	17.1	ポウリング	19.6	自転車	22.8
5位	乗馬		体操(軽い体操、ラジオ体操など)	17.9	ウォーキング	17.4	キャンプ		ポウリング	15.0	なわとび	21.2	ポウリング	17.1	ポウリング	15.2	水泳(スイミング)	22.7
6位	釣り	11.5	なわとび	10.7	なわとび	13.0	サッカー	14.6	ウォーキング	14.3	ポウリング	15.2	海水浴		ウォーキング	10.9	バドミントン	19.2
7位	ドッジボール		ポウリング	10.7	アイススケート	13.0	スキー	14.6	なわとび	12.9	ドッジボール	13	釣り	14.3	キャンプ		なわとび	19.1
8位	ボッチャ		アイススケート	10.7	アクアエクスサイズ(水中歩行・運動など)		釣り		ジョギング・ランニング	10.2	サッカー	12.1	なわとび	14.3	アイススケート		筋力トレーニング	18.9
9位	アイススケート		なわとび	10.7	キャッチボール		なわとび		サッカー	8.8	ハイキング	10.4	バドミントン	11.4	なわとび		ドッジボール	18.8
10位	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	7.7	筋力トレーニング	8.7	筋力トレーニング	8.7	ドッジボール	12.2	ハイキング	8.8	ウォーキング	10.0	釣り	8.6	ハイキング	8.7	野球	17.5
平均実施 種目数	20	27	25	35	32	35	2.8	2.9										

注 1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

注 2) 笹川スポーツ財団「青少年のスポーツライフ・データ」(2012): 10~19 歳を対象とした全国調査。

図表 1-24 過去 1 年間に行ったスポーツ・レクリエーション(障害種別・成人: N=1,954) (複数回答)

順位	重症 精神 障害 者 (必 要 な 場 合)		重症 肢体 障害 者 (必 要 な 場 合)		知的 障害 者		聴覚 障害 者		発達 障害 者		精神 障害 者		障害 を も つ た 人 の 他 の 人 員		ス ポ ー ツ に 関 する 関 心 が あ る 人 員		重 い 体 力 を 要 す る 人 員	
	N=159	N=432	N=101	N=231	N=209	N=136	N=54	N=343	N=2000	N=1897								
1位	128 体振(軽い体操、ラジオ体操など)	285 ウォーキング	282 ウォーキング	320 ウォーキング	316 ウォーキング	33.1 ウォーキング	34.1 ウォーキング	36.7 散歩(ふらふら歩き)	34.9 散歩(ふらふら歩き)	50.8 ウォーキング(駆け歩き含む)								
2位	107 散歩(ふらふら歩き)	269 散歩(ふらふら歩き)	188 散歩(ふらふら歩き)	19.5 散歩(ふらふら歩き)	27.3 散歩(ふらふら歩き)	32.4 散歩(ふらふら歩き)	31.6 散歩(ふらふら歩き)	29.7 ウォーキング	25.0 体振(ラジオ体操、エアロビクス、縄跳びを含む)	30.8 体振(ラジオ体操、縄跳びを含む)								
3位	アイススケート	16.4 体振(軽い体操、ラジオ体操など)	15.5 体振(軽い体操、ラジオ体操など)	17.3 ウォーキング	25.8 体振(軽い体操、ラジオ体操など)	19.1 体振(軽い体操、ラジオ体操など)	18.4 体振(軽い体操、ラジオ体操など)	18.0 体振(軽い体操、ラジオ体操など)	20.5 体振(軽い体操、ラジオ体操など)	12.7 体振(軽い体操、ラジオ体操など)								
4位	ウォーキング	16.2 水泳	10.5 防カトレーニング	10.4 水泳	17.2 水泳	15.4 水泳	12.0 水泳	12.2 水泳	13.0 水泳	9.4 ランニング(ジョギング)								
5位	防カトレーニング	12.0 水泳	8.3 水泳	9.1 水泳	16.7 水泳	11.8 水泳	11.6 釣り	11.1 防カトレーニング	12.2 水泳	9.4 防カトレーニング								
6位	水泳	7.9 釣り	7.2 釣り	7.8 ハイクキング	10.0 ハイクキング	10.3 ジョギング・ランニング	8.6 防カトレーニング	10.8 ジョギング・ランニング	9.7 ゴルフ	9.3 ゴルフ								
7位	水泳	6.7 水泳	6.6 釣り	6.5 釣り	6.2 釣り	8.8 釣り	6.6 ゴルフ(練習場)	6.7 ゴルフ(コース)	8.3 ゴルフ(コース)	8.8 テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球(車いすテニスを含む)								
8位	アカアエクササイズ(水中歩行、運動など)	6.0 ジョギング・ランニング	6.1 水泳	6.1 水泳	4.9 水泳	8.1 水泳	6.2 水泳	6.4 ゴルフ(練習場)	8.0 卓球(車いすテニスを含む)	8.8 卓球(車いすテニスを含む)								
9位	車いすテニス	5.1 水泳	5.5 ハイクキング	5.5 ハイクキング	5.5 ハイクキング	6.1 水泳	6.0 ゴルフ(コース)	6.1 卓球	7.5 卓球	8.0 卓球								
10位	釣り	4.9 アカアエクササイズ(水中歩行、運動など)	4.4 アカアエクササイズ(水中歩行、運動など)	4.4 アカアエクササイズ(水中歩行、運動など)	3.8 卓球	3.8 卓球	5.8 サイクリング	5.5 釣り	7.4 サイクリング	6.5 登山(クライミングを含む)								
11位	ふうせんハレー	4.4 ジョギング・ランニング	4.4 キヤッチボール	5.6 バドミントン	5.6 バドミントン	6.6 バドミントン	5.4 水泳	4.7 サイクリング	7.4 サイクリング	6.4 サイクリング								
12位	卓球(サウンドテーブルテニスを含む)	3.9 ヨーガ	3.9 ヨーガ	5.2 防カトレーニング	5.2 防カトレーニング	5.2 防カトレーニング	5.1 防カトレーニング	4.4 水泳	7.2 スキー、スノーボード	5.9 スキー、スノーボード								
13位	ポッチャ	3.5 野球	3.9 野球	4.8 サイクリング	4.8 サイクリング	4.8 サイクリング	4.4 ヨーガ	4.1 水泳	7.1 ハイクキング	5.4 ハイクキング								
14位	車椅子バスケットボール	3.0 キャンプ	3.0 キャンプ	4.3 キヤッチボール	4.3 キヤッチボール	4.3 キヤッチボール	4.9 登山	3.8 サッカー	5.6 卓球	5.3 卓球								
15位	バドミントン	3.1 サイクリング	3.1 サイクリング	4.3 ダンス(社交ダンス、フォークダンス、フラダンスなど)	4.3 ダンス(社交ダンス、フォークダンス、フラダンスなど)	4.3 ダンス(社交ダンス、フォークダンス、フラダンスなど)	3.7 エアロビクス	3.8 ハイクキング	5.0 ハイクキング	5.2 ハイクキング								
16位	ヨーガ	2.8 テニス(硬球テニス)	2.8 テニス(硬球テニス)	2.8 スノーボード	2.8 スノーボード	2.8 スノーボード	2.8 ダンス(社交ダンス、フォークダンス、フラダンスなど)	2.2 ダンス(社交ダンス、フォークダンス、フラダンスなど)	2.2 ダンス(社交ダンス、フォークダンス、フラダンスなど)	2.2 ダンス(社交ダンス、フォークダンス、フラダンスなど)								
平均実施 項目数	1.4	1.9	1.9	2.2	2.0	2.3	2.2	2.1	3.5	-								

注 1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

注 2) 笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2012): 成人を対象とした全国調査。

注 3) 文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査」(平成 25 年 1 月): 全国 20 歳以上の日本国籍を有する者が対象。

#### (4) スポーツ・レクリエーションの実施回数と指導者がいる割合

過去 1 年間に行ったスポーツ・レクリエーション種目について、実施回数と指導者の有無を尋ねた(図表 1-25)。全体として、「ウォーキング」「散歩(ぶらぶら歩き)」「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」は実施率も高く、年平均実施回数も多い。指導者については、「水泳」「ダンス」など専門的な技術を必要とする種目は、指導者がいる割合が高い。一方、「ウォーキング」「散歩(ぶらぶら歩き)」などのスポーツ・レクリエーションにおいても指導者がいるとの回答があった。これを、障害種別にみると、「肢体不自由(車椅子必要)」「知的障害」「発達障害」では、「ウォーキング」「散歩(ぶらぶら歩き)」などの種目でも、指導者がいる割合が高く、リハビリテーションや学校・障害者福祉施設の活動の一貫として、介助者や教員が指導者の役割を担っていることが考えられる(図表 1-26、図表 1-27、図表 1-28)。

図表 1-25 スポーツ・レクリエーション種目(実施率上位 30 種目)の年平均実施回数・指導者がいる割合

種目名	年平均実施回数	指導者がいる割合(%)
ウォーキング[N=618]	118.4	11.7
散歩(ぶらぶら歩き)[N=598]	96.7	17.6
体操(軽い体操、ラジオ体操など)[N=430]	113.6	41.6
水泳[N=365]	36.3	44.1
筋カトレニング[N=210]	112.2	31.9
ボウリング[N=166]	7.9	21.1
海水浴[N=162]	5.9	17.3
釣り[N=151]	12.8	27.8
ジョギング・ランニング[N=130]	92.7	17.7
サイクリング[N=93]	66.9	7.5
登山[N=92]	6.2	37.0
ハイキング[N=92]	7.5	44.6
卓球(サウンドテーブルテニスを含む)[N=91]	31.9	27.5
ゴルフ(練習場)[N=78]	24.7	17.9
なわとび[N=76]	38.6	26.3
ゴルフ(コース)[N=71]	10.3	15.5
キャッチボール[N=70]	47.6	35.7
ダンス(社交ダンス、フォークダンス、フラダンスなど)[N=69]	45.8	79.7
アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)[N=65]	53.5	44.6
ヨーガ[N=65]	70.2	63.1
キャンプ[N=62]	2.9	37.1
サッカー[N=62]	50.2	50.0
アイススケート[N=60]	8.9	55.0
バドミントン[N=56]	31.7	26.8
スキー[N=54]	9.0	27.8
テニス(硬式テニス)[N=53]	36.9	49.1
野球[N=49]	39.4	40.8
エアロビックダンス[N=48]	35.7	72.9
ドッジボール[N=48]	41.5	39.6
パレーボール[N=48]	36.2	68.4

図表 1-26 スポーツ・レクリエーション種目（実施率上位種目）の年平均実施回数・指導者がいる割合（障害種別・全体：N=2,390）

		(車椅子不自由)	(肢体不自由)	(車椅子不自由)	(聴覚障害)	(知的障害)	(発達障害)	(精神障害)	(障害を言合める内部)
	項目	N=185	N=460	N=204	N=272	N=356	N=367	N=569	N=389
1位	種目名	散歩(ふらふら歩き)	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	散歩(ふらふら歩き)	水泳	ウォーキング	ウォーキング
	年平均実施回数	75.3	125.3	104.4	113.7	99.1	29.5	138.3	115.2
	指導者がいる割合(%)	52.0	9.7	9.6	9.2	42.6	64.6	7.7	6.3
2位	種目名	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	水泳	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)
	年平均実施回数	110.9	112.4	130.2	106.5	30.7	73.9	94.8	113.3
	指導者がいる割合(%)	71.4	9.7	15.0	4.2	69.4	30.5	14.9	10.2
3位	種目名	アイススケート	水泳	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)
	年平均実施回数	13.7	35.7	167.1	129.7	99.0	76.0	110.0	129.5
	指導者がいる割合(%)	72.2	27.8	27.3	36.7	73.9	57.1	32.4	25.4
4位	種目名	ウォーキング	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	筋力トレーニング	水泳	ウォーキング	ウォーキング	水泳	水泳
	年平均実施回数	85.4	133.1	133.1	46.3	102.3	93.9	41.8	38.8
	指導者がいる割合(%)	37.5	38.7	38.1	31.0	38.9	22.6	23.1	32.7
5位	種目名	筋力トレーニング	筋力トレーニング	海水浴	筋力トレーニング	ポウリング	海水浴	筋力トレーニング	筋力トレーニング
	年平均実施回数	113.7	110.1	18.5	89.0	4.6	3.0	122.8	113.3
	指導者がいる割合(%)	64.7	32.1	17.6	37.9	46.0	0.1	16.1	35.1
6位	種目名	海水浴	釣り	釣り	釣り	海水浴	ポウリング	ジョギング・ランニング	釣り
	年平均実施回数	11.1	14.5	21.0	10.0	1.6	6.3	77.6	15.6
	指導者がいる割合(%)	21.4	16.7	28.6	28.6	21.1	28.2	8.9	19.4
7位	種目名	水泳	ゴルフ(コース)	水泳	ポウリング	ハイキング	なわとび	海水浴	ポウリング
	年平均実施回数	29.3	6.5	42.1	26.7	6.2	41.6	3.8	15.0
	指導者がいる割合(%)	57.1	16.0	42.9	6.7	78.6	34.1	11.8	12.5
8位	種目名	アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)	ゴルフ(練習場)	ジョギング・ランニング	海水浴	ジョギング・ランニング	ハイキング	ポウリング	海水浴
	年平均実施回数	16.0	24.1	64.3	3.4	104.9	5.8	7.4	10.4
	指導者がいる割合(%)	63.6	16.7	0.0	35.7	52.2	79.2	11.8	9.1
9位	種目名	釣り	ポウリング	アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)	バドミントン	なわとび	ジョギング・ランニング	釣り	ゴルフ(練習場)
	年平均実施回数	13.6	3.0	43.3	36.9	61.3	92.5	10.9	28.2
	指導者がいる割合(%)	50.0	0.0	55.6	28.6	25.0	31.0	38.2	8.3
10位	種目名	ふうせんバレー	海水浴	キャッチボール	卓球(サウンドテーブル(ニスを含む))	バスケットボール	ドッジボール	サイクリング	ゴルフ(コース)
	年平均実施回数	16.8	6.2	39.2	33.8	38.4	52.7	82.6	14.7
	指導者がいる割合(%)	55.6	20.0	50.0	18.8	85.7	51.9	0.0	10.0
11位	種目名	ボッチャ	ポウリング	ポウリング	ハイキング				
	年平均実施回数	42.1	15.2	15.2	6.8				
	指導者がいる割合(%)	87.5	20.0	20.0	15.4				

注)車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/不要としないこと。

図表 1-27 スポーツ・レクリエーション種目（実施率上位種目）の年平均実施回数・指導者がいる割合（障害種別・7～19歳：N=436）

項目	（車椅子不自由必要）	（車椅子不自由不要）	（車椅子不自由不要）	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	障害（音声その他の言葉をめぐる内部）	青少年（参考） 2012 1デー 21タ
1位	散歩（ぶらぶら歩き）	水泳	散歩（ぶらぶら歩き）	水泳	水泳	水泳	水泳	体操（軽い体操、ラジオ体操など）	散歩（ぶらぶら歩き）	サッカー
年平均実施回数	82.5	19.1	38.0	46.9	29.1	29.1	29.2	59.7	75.8	131.3
指導者がいる割合(%)	62.5	90.0	33.3	40.0	71.0	71.0	68.8	66.7	42.1	40.9
2位	海水浴	散歩（ぶらぶら歩き）	海水浴	体操（軽い体操、ラジオ体操など）	体操（軽い体操、ラジオ体操など）	散歩（ぶらぶら歩き）	体操（軽い体操、ラジオ体操など）	散歩（ぶらぶら歩き）	水泳	バスケットボール
年平均実施回数	2.3	139.5	1.5	112.8	56.9	68.8	56.9	57.9	44.6	133.9
指導者がいる割合(%)	0.0	12.5	0.0	80.0	66.1	33.3	66.1	44.4	69.2	44.8
3位	水泳	なわとび	体操（軽い体操、ラジオ体操など）	散歩（ぶらぶら歩き）	体操（軽い体操、ラジオ体操など）	散歩（ぶらぶら歩き）	散歩（ぶらぶら歩き）	水泳	海水浴	ジョギング・ランニング
年平均実施回数	16.7	37.7	144.0	60.0	86.5	86.5	55.7	45.4	1.7	109.1
指導者がいる割合(%)	83.3	42.9	60.0	25.0	62.9	62.9	31.5	57.1	11.1	16.9
4位	アクアエクスサイズ（水中歩行、運動など）	海水浴	ウォーキング	筋力トレーニング	海水浴	海水浴	海水浴	海水浴	体操（軽い体操、ラジオ体操など）	水泳（スイミング）
年平均実施回数	27.8	5.3	42.0	85.7	3.4	1.8	3.4	3.3	92.8	69.7
指導者がいる割合(%)	75.0	16.7	25.0	71.4	13.2	19.2	13.2	50.0	37.5	56.3
5位	乗馬	体操（軽い体操、ラジオ体操など）	釣り	キャンプ	なわとび	ボウリング	なわとび	ウォーキング	ボウリング	野球
年平均実施回数	3.0	76.8	5.0	2.4	38.7	3.9	38.7	24.0	1.8	143.2
指導者がいる割合(%)	50.0	80.0	66.7	20.0	33.3	37.5	33.3	60.0	25.0	52.0
6位	釣り	乗馬	乗馬	乗馬	乗馬	乗馬	乗馬	乗馬	乗馬	乗馬
年平均実施回数	4.7	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3
指導者がいる割合(%)	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3
7位	ドッジボール	ドッジボール	ドッジボール	ドッジボール	ドッジボール	ドッジボール	ドッジボール	ドッジボール	ドッジボール	ドッジボール
年平均実施回数	12.3	12.3	12.3	12.3	12.3	12.3	12.3	12.3	12.3	12.3
指導者がいる割合(%)	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3
8位	ボッチャ	ボッチャ	ボッチャ	ボッチャ	ボッチャ	ボッチャ	ボッチャ	ボッチャ	ボッチャ	ボッチャ
年平均実施回数	13.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7
指導者がいる割合(%)	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7

注1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

注2) 笹川スポーツ財団「青少年のスポーツライフ・データ」(2012) : 10～19歳を対象とした全国調査。

図表 1-28 スポーツ・レクリエーション種目(実施率上位種目)の年平均実施回数・指導者がいる割合(障害種別・成人:N=1,954)

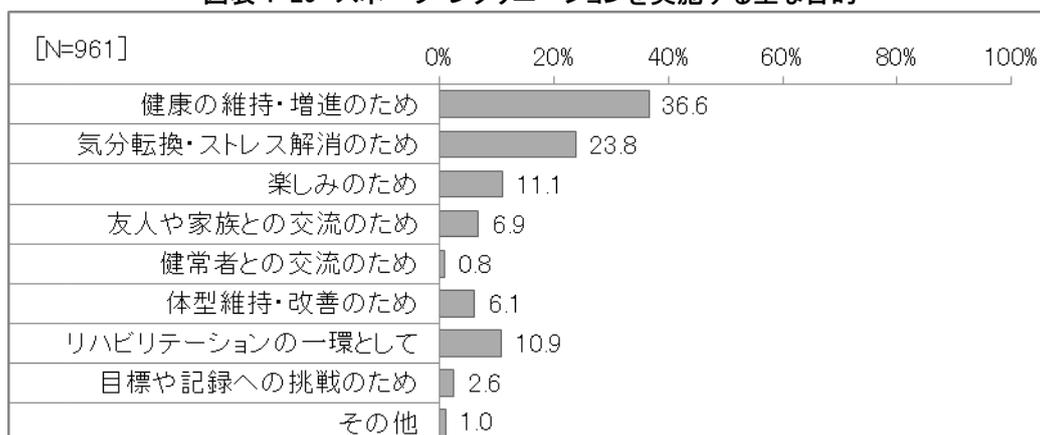
項目	N=432	N=181	N=231	N=209	N=136	N=534	N=343	N=2,000
1位	(車椅子不自由) N=159 体操(軽い体操、ラジ体操 操など) ウォーキング	(車椅子不自由) N=181 ウォーキング	(聴覚障害) N=231 ウォーキング	(知的障害) N=209 散歩(ぶらぶら歩き) 体操(軽い体操、ラジ体操 操など)	(発達障害) N=136 ウォーキング	(精神障害) N=534 ウォーキング	(障害を言合める内) N=343 ウォーキング	散歩(ぶらぶら歩き) N=2,000
年平均実施回数	109.2	109.6	118.4	123.2	115.0	141.5	115.0	128.6
指導者がいる割合(%)	70.0	8.3	9.6	50.0	16.3	6.2	6.5	-
2位	(車椅子不自由) N=159 散歩(ぶらぶら歩き)	(車椅子不自由) N=181 散歩(ぶらぶら歩き)	(聴覚障害) N=231 散歩(ぶらぶら歩き)	(知的障害) N=209 散歩(ぶらぶら歩き) 体操(軽い体操、ラジ体操 操など)	(発達障害) N=136 散歩(ぶらぶら歩き)	(精神障害) N=534 散歩(ぶらぶら歩き)	(障害を言合める内) N=343 散歩(ぶらぶら歩き)	ウォーキング
年平均実施回数	71.9	146.4	110.7	106.7	97.8	96.8	120.5	142
指導者がいる割合(%)	47.1	11.8	2.3	80.7	29.3	13.3	4.0	-
3位	(車椅子不自由) N=159 アイススケート	(車椅子不自由) N=181 体操(軽い体操、ラジ体操 操など)	(聴覚障害) N=231 体操(軽い体操、ラジ体操 操など)	(知的障害) N=209 ウォーキング	(発達障害) N=136 体操(軽い体操、ラジ体操 操など)	(精神障害) N=534 体操(軽い体操、ラジ体操 操など)	(障害を言合める内) N=343 体操(軽い体操、ラジ体操 操など)	体操(軽い体操、ラジ体操 操など)
年平均実施回数	12.4	171.2	134.0	110.2	121.1	114.7	134.5	147
指導者がいる割合(%)	81.3	21.4	25.6	40.7	36.0	29.2	23.7	-
4位	(車椅子不自由) N=159 ウォーキング	(車椅子不自由) N=181 筋力トレーニング	(聴覚障害) N=231 筋力トレーニング	(知的障害) N=209 水泳	(発達障害) N=136 水泳	(精神障害) N=534 筋力トレーニング	(障害を言合める内) N=343 水泳	筋力トレーニング
年平均実施回数	85.4	137.1	90.0	33.4	31.3	124.5	37.0	118.9
指導者がいる割合(%)	37.5	36.8	27.3	66.7	45.0	16.7	21.4	-
5位	(車椅子不自由) N=159 筋力トレーニング	(車椅子不自由) N=181 海水浴	(聴覚障害) N=231 水泳	(知的障害) N=209 ポウリング	(発達障害) N=136 ポウリング	(精神障害) N=534 水泳	(障害を言合める内) N=343 釣り	ポウリング
年平均実施回数	111.8	23.7	45.9	4.9	6.0	41.3	15.6	6.1
指導者がいる割合(%)	62.5	23.1	26.3	50.0	33.3	19.0	19.4	-

注 1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。  
注 2) 笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2012): 成人を対象とした全国調査。

## (5) スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的

スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的については、「健康の維持・増進のため」(36.6%)が最も多く、次いで「気分転換・ストレス解消のため」(23.8%)、「楽しみのため」(11.1%)であった(図表 1-29)。文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査」(平成 25 年 1 月)では、「健康・体力づくりのため」「楽しみ、気晴らしとして」との回答が多く、本調査と同様の傾向を示した。障害種別では、肢体不自由において「リハビリテーションの一環として」との回答が多く、障害種による特徴がみられる(図表 1-30)。

図表 1-29 スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的



注) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

図表 1-30 スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的(障害種別)

	(%)							
	肢体不自由(車椅子必要)	肢体不自由(車椅子不要)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他(音声・言語・そしゃく機能障害や内部障害を含む)
	N=61	N=273	N=92	N=110	N=13	N=46	N=322	N=186
健康の維持・増進のため	26.2	36.7	38.0	36.4	30.8	45.7	34.2	39.2
気分転換・ストレス解消のため	13.1	16.5	23.9	29.1	15.4	26.1	30.7	21.0
楽しみのため	18.0	11.0	10.9	15.5	15.4	4.3	8.1	11.8
友人や家族との交流のため	8.2	6.8	8.7	7.3	0.0	6.5	5.6	6.5
健常者との交流のため	3.3	0.4	0.0	0.0	7.7	0.0	1.2	1.1
体型維持・改善のため	4.9	3.0	6.5	6.4	7.7	4.3	9.0	3.8
リハビリテーションの一環として	21.3	22.8	7.6	1.8	7.7	8.7	8.4	14.0
目標や記録への挑戦のため	4.9	2.1	3.3	3.6	15.4	4.3	1.6	1.1
その他	0.0	0.8	1.1	0.0	0.0	0.0	1.2	1.6

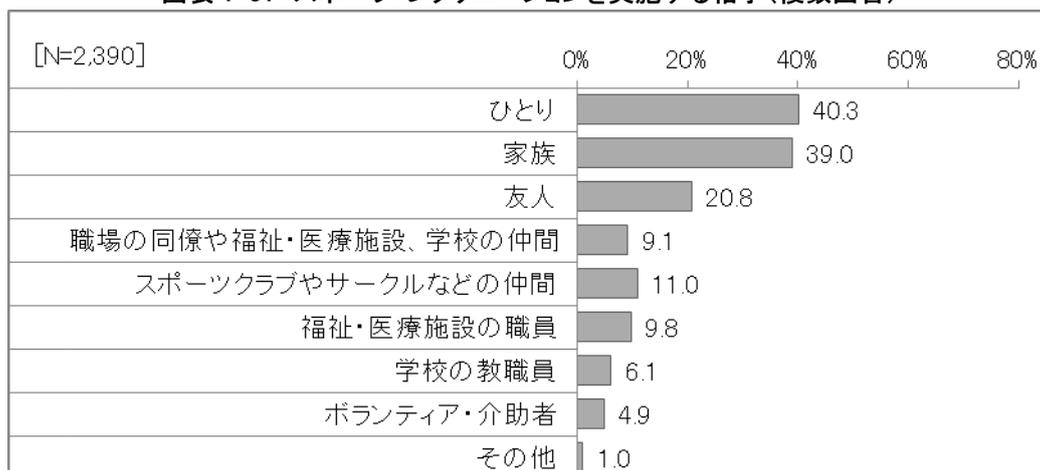
注 1) 車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

注 2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

## (6) スポーツ・レクリエーションを実施する相手

スポーツ・レクリエーションを実施する相手については、「ひとり」(40.3%)が最も多く、次いで「家族」(39.0%)、「友人」(20.8%)であった(図表 1-31)。障害種別では、「知的障害」と「発達障害」は、他の障害種と比較して、「家族」「学校の教職員」と一緒にスポーツ・レクリエーションをする割合が高い一方、「ひとり」で実施する割合は低くなっている。また、「肢体不自由(車椅子必要)」と「知的障害」では、「福祉・医療施設の職員」と実施する割合が高い(図表 1-32)。

図表 1-31 スポーツ・レクリエーションを実施する相手(複数回答)



図表 1-32 スポーツ・レクリエーションを実施する相手(障害種別)

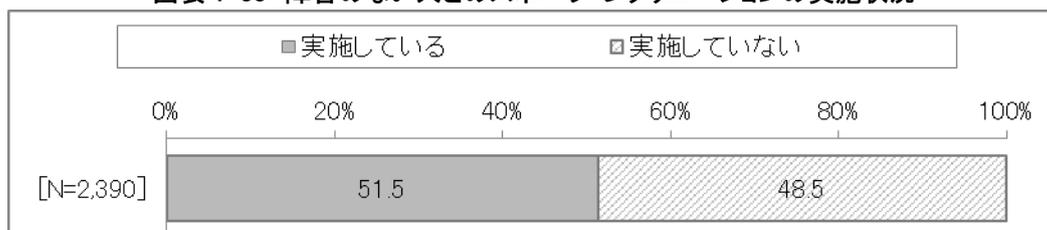
	(%)							
	肢体不自由(車椅子必要)	肢体不自由(車椅子不要)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他(音声・言語・そしゃく機能障害や内部障害を含む)
	N=185	N=460	N=204	N=272	N=356	N=367	N=569	N=389
ひとり	20.0	50.0	43.1	36.4	14.6	24.3	56.1	44.5
家族	37.8	35.2	34.8	39.0	50.6	49.0	34.8	40.6
友人	14.6	22.2	24.0	29.0	15.2	20.4	14.2	23.9
職場の同僚や福祉・医療施設、学校の仲間	11.4	5.9	9.3	7.7	19.1	11.4	8.1	7.5
スポーツクラブやサークルなどの仲間	14.6	8.5	10.8	15.1	10.7	15.3	8.1	12.6
福祉・医療施設の職員	25.4	7.2	10.3	6.6	28.7	12.0	7.9	7.5
学校の教職員	6.5	2.8	3.9	6.3	14.6	20.2	2.8	4.1
ボランティア・介助者	9.7	3.5	4.4	3.7	14.3	7.6	2.8	3.1
その他	1.1	1.1	1.0	0.7	0.8	1.1	1.1	1.3

注)車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

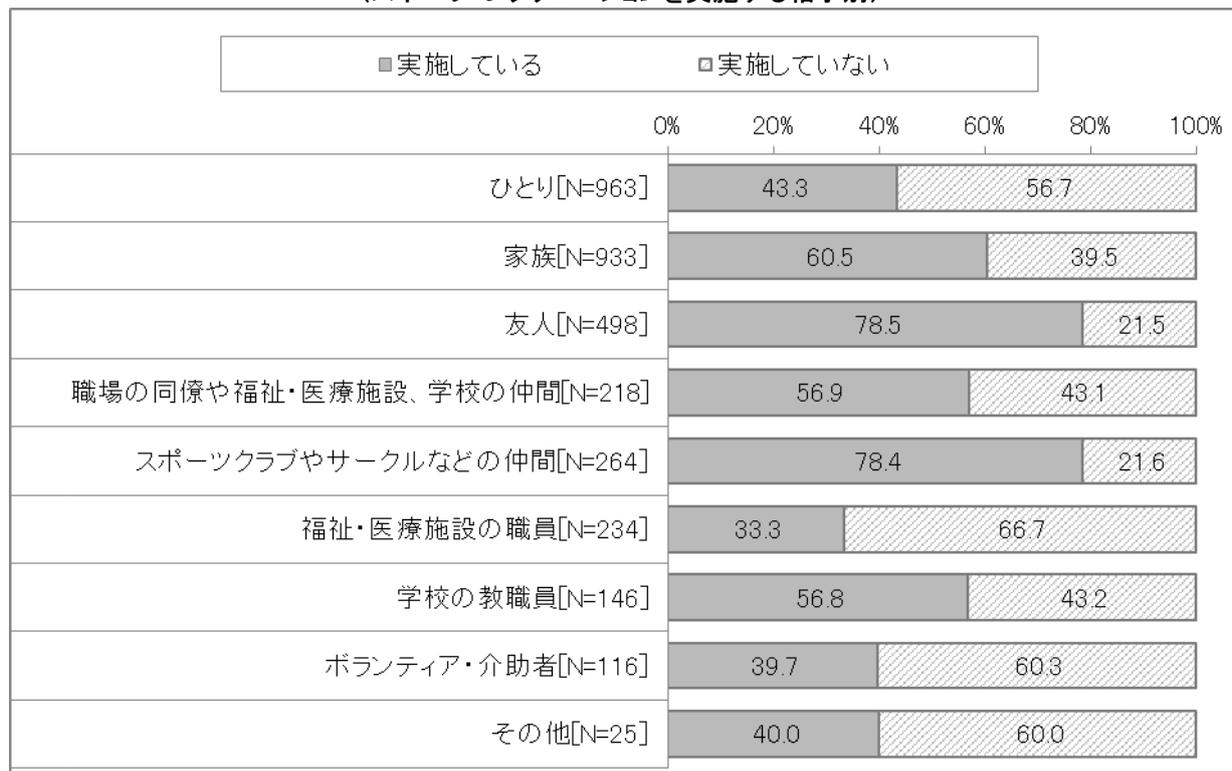
## (7) 障害のない人とのスポーツ・レクリエーションの実施状況

指導者や介助者を除いた障害のない人とのスポーツ・レクリエーションの実施状況について尋ねたところ、51.5%と半数の障害児・者が障害のない人と一緒にスポーツ・レクリエーションを行っていた(図表1-33)。スポーツ・レクリエーションを実施する主な相手別にみると、「友人」「スポーツクラブやサークルなどの仲間」と実施している障害児・者では、障害のない人と一緒にスポーツをする割合が高い(図表1-34)。

図表 1-33 障害のない人とのスポーツ・レクリエーションの実施状況

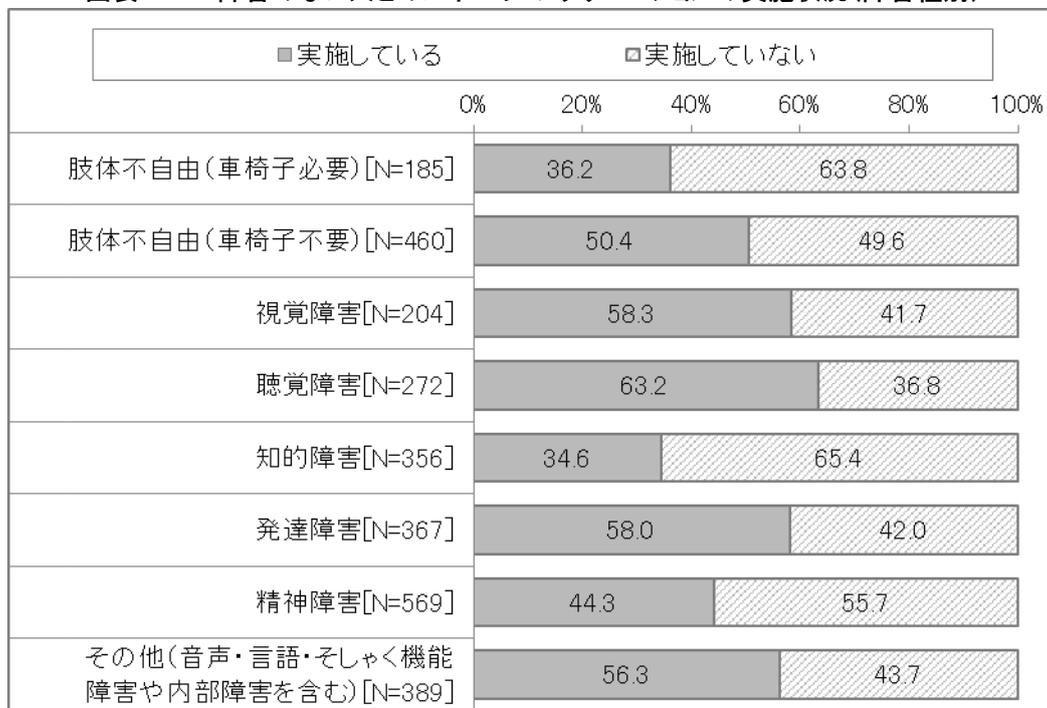


図表 1-34 障害のない人とのスポーツ・レクリエーションの実施状況  
(スポーツ・レクリエーションを実施する相手別)



障害種別にみると、「聴覚障害」「視覚障害」「発達障害」では障害のない人と一緒にスポーツ・レクリエーションを実施している割合が高い一方、「肢体不自由（車椅子必要）」「知的障害」ではその割合は低かった（図表 1-35）。

図表 1-35 障害のない人とのスポーツ・レクリエーションの実施状況（障害種別）

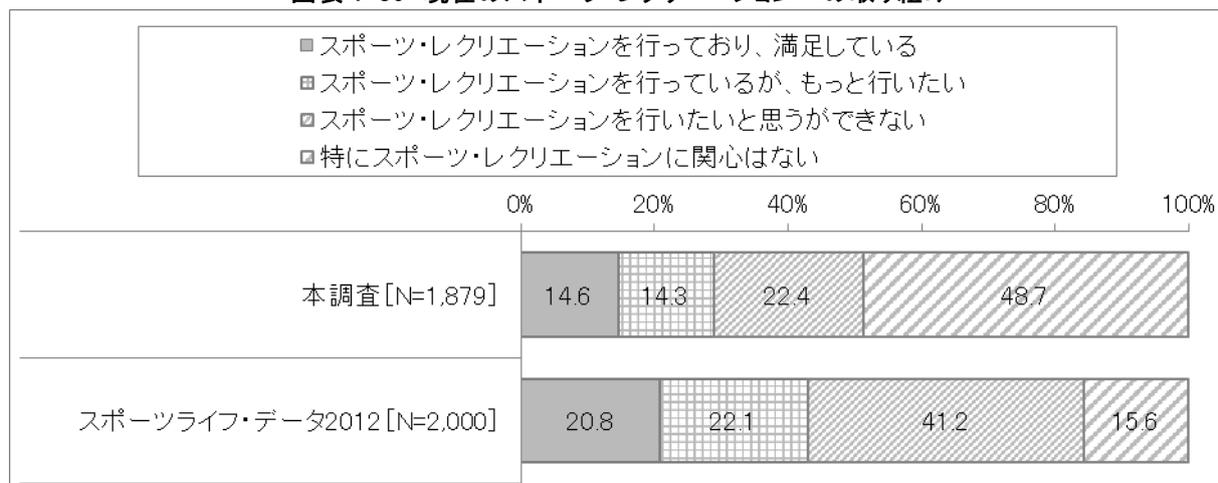


注) 車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

## (8) 現在のスポーツ・レクリエーションへの取り組み

現在のスポーツ・レクリエーションへの取り組みについて、スポーツ・レクリエーションを実施しているか否かに関わらず尋ねたところ、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」(48.7%)が最も多く、次いで「スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない」(22.4%)であった(図表 1-36)。笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2012)と比較すると、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」との無関心層が多い。この無関心層は、非実施者が多いものの、過去1年間にスポーツ・レクリエーションを実施した人にも含まれている(図表 1-37)。一方で、「スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない」と回答した非実施者が 26.0%であり、スポーツ・レクリエーションに対して潜在的なニーズがあることも分かる。

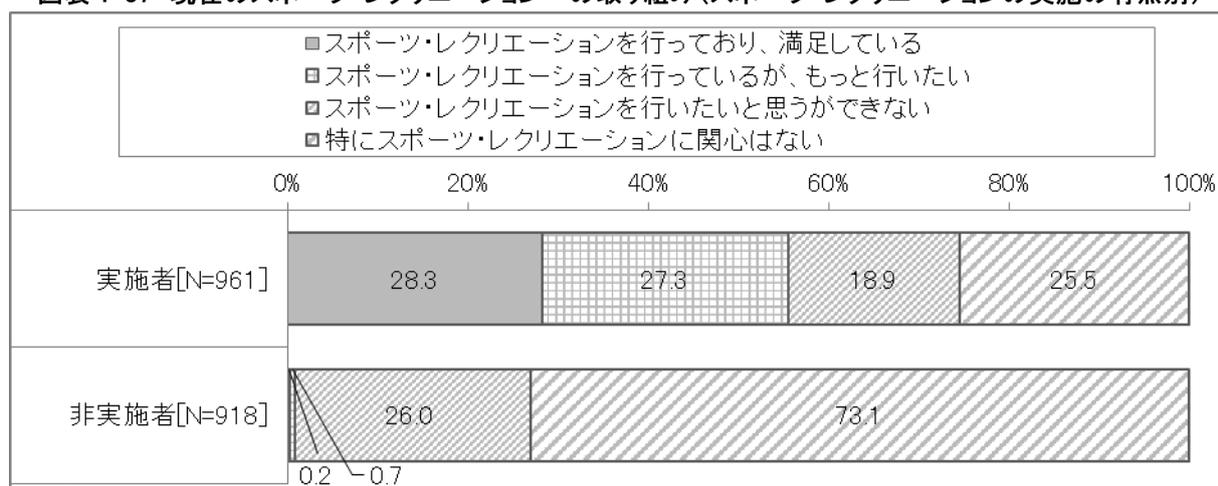
図表 1-36 現在のスポーツ・レクリエーションへの取り組み



注 1) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

注 2) 笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2012)：成人を対象とした全国調査。

図表 1-37 現在のスポーツ・レクリエーションへの取り組み(スポーツ・レクリエーションの実施の有無別)

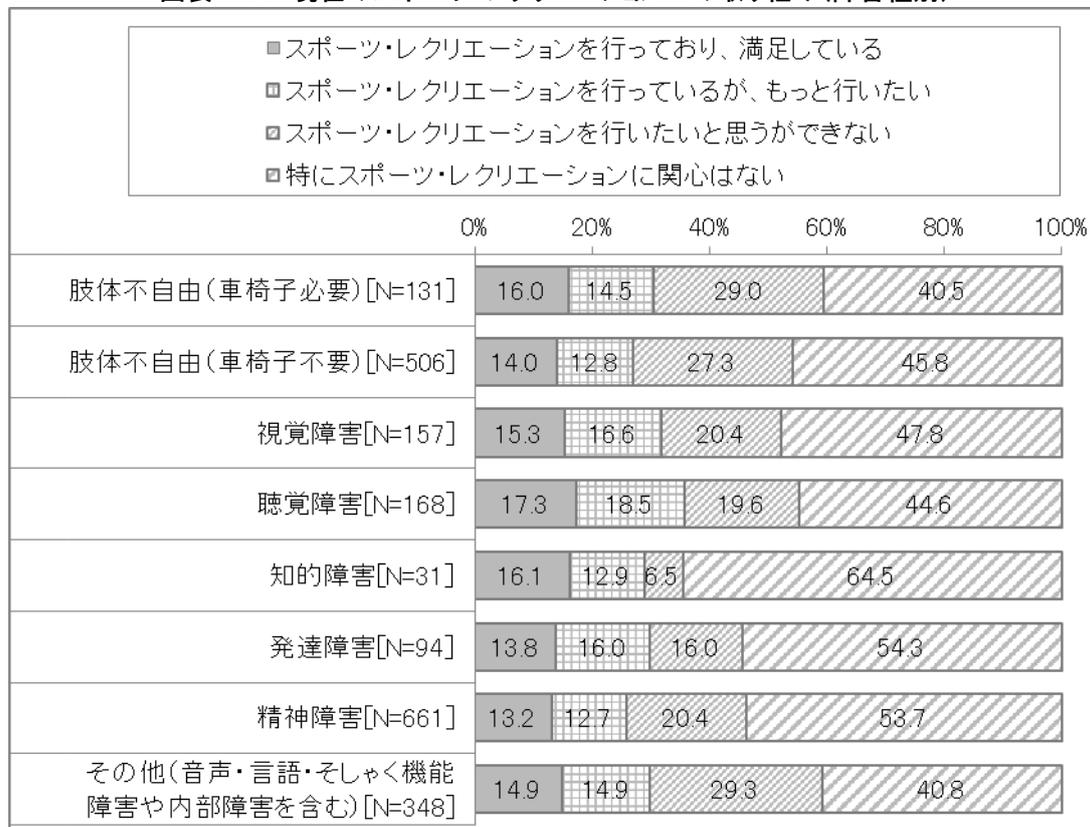


注 1) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

注 2) 非実施者の中に、「スポーツ・レクリエーションを行っており、満足している」「スポーツを行っているが、もっと行いたい」と回答した人がある。矛盾した回答であるが、図表 1-36 との比較の参考として、そのまま掲載した。

障害種別にみると、「知的障害」では、他の障害種に比べて「スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない」の割合が低く、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」の割合が高かった(図表 1-38)。

図表 1-38 現在のスポーツ・レクリエーションへの取り組み(障害種別)



注 1) 車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

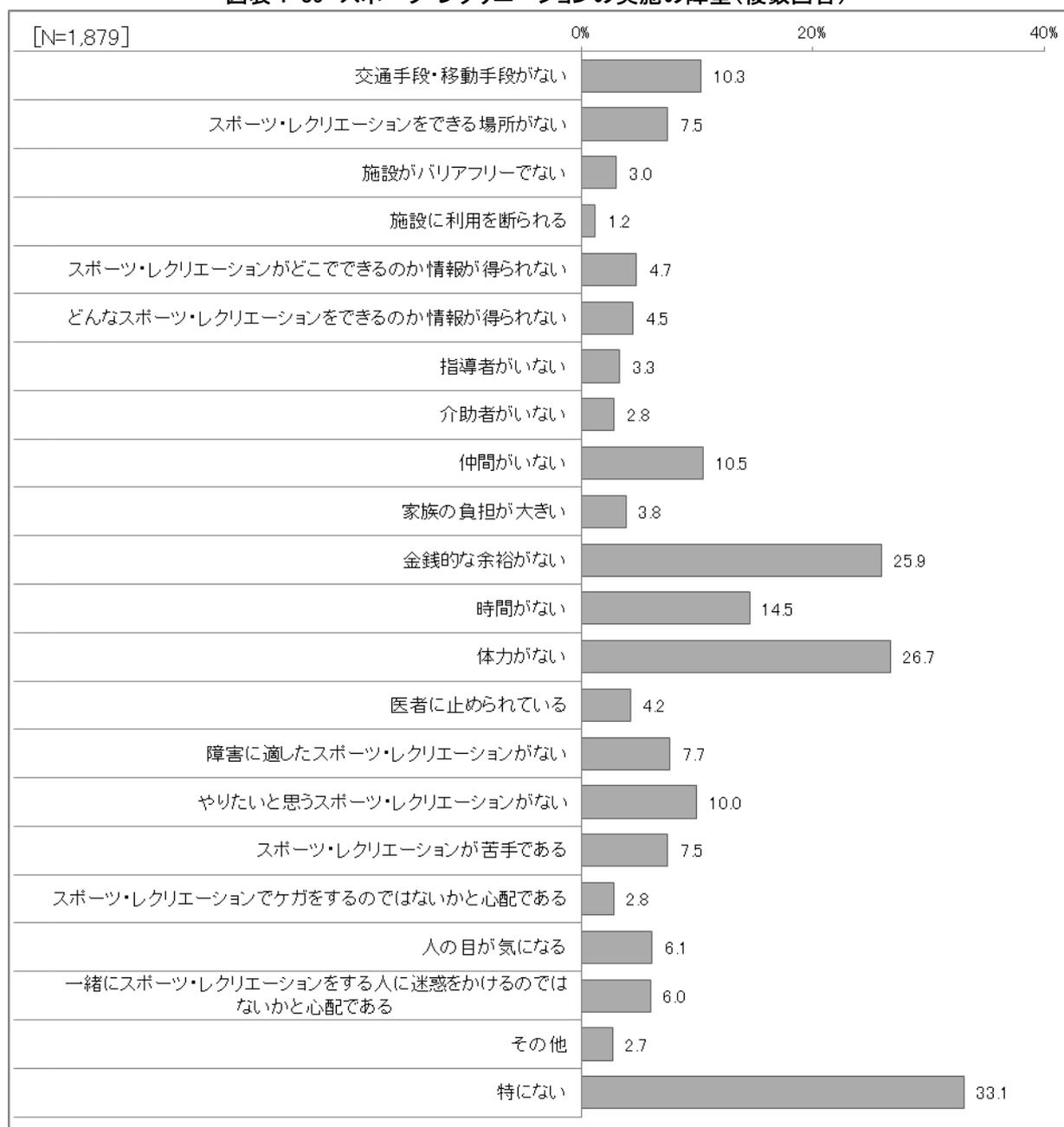
注 2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

### (9) スポーツ・レクリエーションの実施において障壁となっているもの

スポーツ・レクリエーションの実施の障壁について、「特にない」と回答した割合が33.1%であった。障壁があると回答した中では、「体力がない」(26.7%)が最も多く、次いで「金銭的な余裕がない」(25.9%)、「時間がない」(14.5%)であった(図表 1-39)。

障害種別にみると、「肢体不自由(車椅子必要)」では、「交通手段・移動手段がない」「スポーツ・レクリエーションをできる場所がない」「家族の負担が大きい」と回答した割合が他の障害種に比べて高かった(図表 1-40)。また、「知的障害」では、「スポーツ・レクリエーションがどこでできるのか情報が得られない」「どんなスポーツ・レクリエーションをできるのか情報が得られない」と回答した割合が他の障害種に比べて高かった。

図表 1-39 スポーツ・レクリエーションの実施の障壁(複数回答)



注)スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

図表 1-40 スポーツ・レクリエーションの実施の障壁(障害種別)

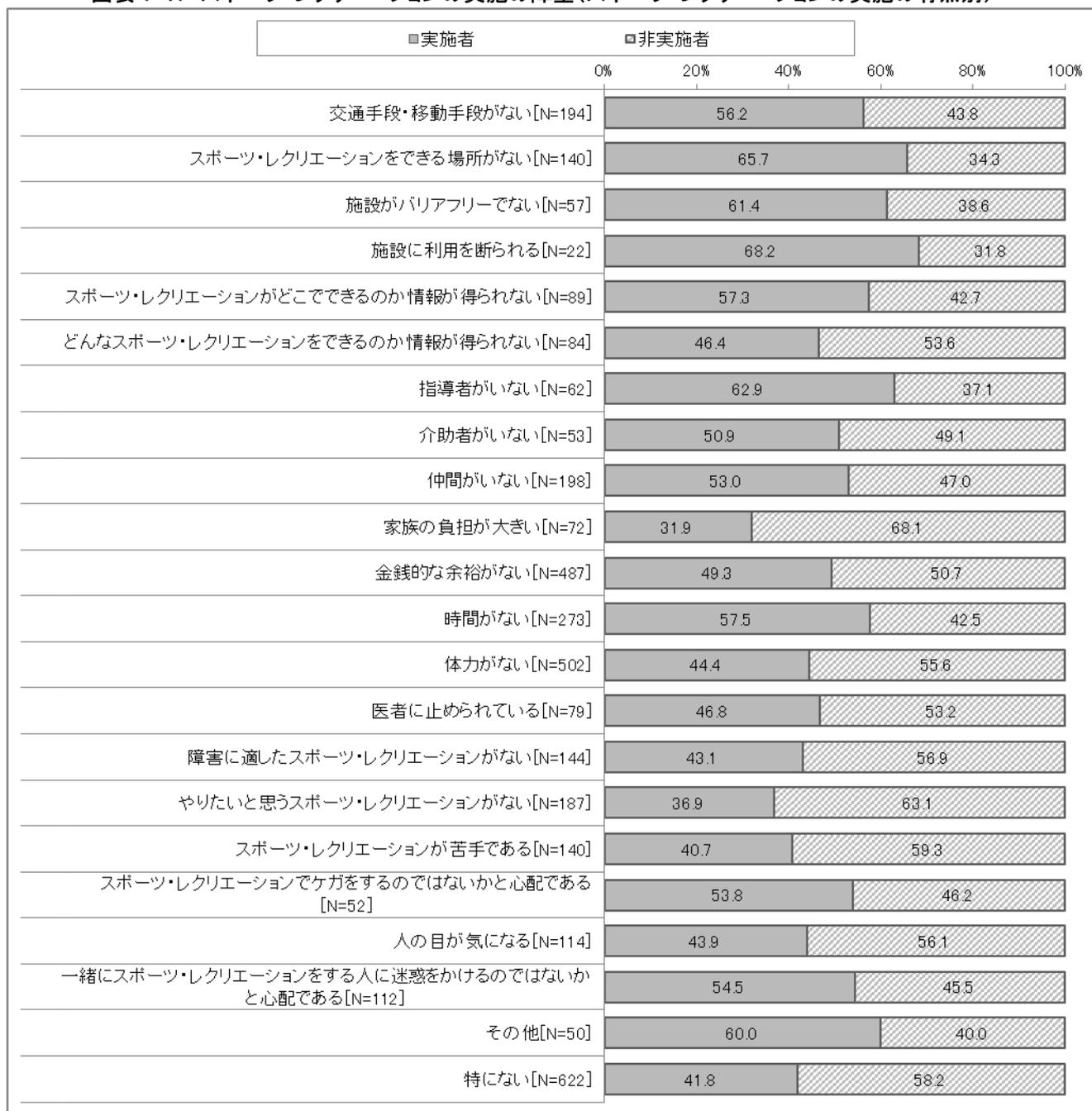
	〔N=131〕		〔N=157〕		〔N=168〕		〔N=31〕		〔N=94〕		〔N=66〕		〔N=348〕			
	(車椅子不自由)	(車椅子不自由)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	障害(音声を含める)	その他	部						
1位	体力がない	237	体力がない	255	金銭的な余裕がない	197	金銭的な余裕がない	179	金銭的な余裕がない	258	金銭的な余裕がない	404	金銭的な余裕がない	362	体力がない	35.3
2位	金銭的な余裕がない	206	金銭的な余裕がない	239	体力がない	191	時間がない	155	交通手段・移動手段がない	16.1	体力がない	287	体力がない	33.4	金銭的な余裕がない	21.6
3位	交通手段・移動手段がない	198	障害に適したスポーツ・レクリエーションがない	150	時間がない	146	体力がない	11.3	仲間がいない		時間がない	223	仲間がいない	16.8	時間がない	16.4
4位	スポーツ・レクリエーションをできる場所がない	153	時間がない	138	交通手段・移動手段がない	140	仲間がいない	71	スポーツ・レクリエーションかどこでできるのか情報が得られない	129	仲間がいない	170	時間がない	14.7	医者に止められている	10.3
5位	家族の負担が大きい		交通手段・移動手段がない	109	仲間がいない	102	交通手段・移動手段がない	65	どんなスポーツ・レクリエーションをできるのか情報が得られない		人の目が気になる	117	やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない	13.9	障害に適したスポーツ・レクリエーションがない	10.1
	特になし	298	特になし	330	特になし	338	特になし	39.3	特になし	45.2	特になし	25.5	特になし	30.7	特になし	28.4

注 1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

注 2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無で回答を分析した(図表1-41)。この場合、スポーツ・レクリエーションの実施の障壁は、実施者にとっては、スポーツ・レクリエーションを実施するうえでの課題、非実施者にとってはスポーツ・レクリエーションを実施しない要因として考えることができるが、共に「金銭的な余裕がない」「体力がない」「時間がない」が上位に挙げられている。この他の項目を、実施者、非実施者で比較すると、実施者は「交通手段・移動手段がない」「スポーツ・レクリエーションをできる場所がない」などのハード面に課題を感じている傾向がある。一方、非実施者は、「やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない」「障害に適したスポーツ・レクリエーションがない」などのソフト面や、「スポーツ・レクリエーションが苦手である」といった意識面に障壁があることがわかる。

図表 1-41 スポーツ・レクリエーションの実施の障壁(スポーツ・レクリエーションの実施の有無別)



注 1) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。  
 注 2) 参考資料に同内容の図表を掲載する。

### 2. 3 今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション

今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション(現在行っているスポーツ・レクリエーションを含む)については、どの障害種においても「特にない」との回答が多かった。行いたいと思うスポーツ・レクリエーションの中では、「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」「筋力トレーニング」との回答が多く(図表 1-42)、この傾向は、過去1年間に行ったスポーツ・レクリエーション(図表 1-22、図表 1-23、図表 1-24)と同様の結果である。また、笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2012)においても、「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」「筋力トレーニング」の実施希望が高く、本調査も同じ傾向を示した。

図表 1-42 今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション(障害種別・成人: N=1,872)(複数回答)

	N=586 (車椅子 不自由 要)		N=156 (視覚 障害)		N=165 (聴覚 障害)		N=90 (知的 障害)		N=93 (発達 障害)		N=347 (障害 を有する 他の 内)		N=2,000 (20歳 以上 11歳 未満)		N=1,897 (11歳 未満 5歳 未満)	
	1位	2位	1位	2位	1位	2位	1位	2位	1位	2位	1位	2位	1位	2位	1位	2位
1位	ウォーキング	176	ウォーキング	167	ウォーキング	200	ウォーキング	204	ウォーキング	194	ウォーキング	254	ウォーキング	254	ウォーキング	539
2位	散歩(ぶらぶら歩き) 体操(軽い体操、ラジオ体操など)	164	筋力トレーニング	147	散歩(ぶらぶら歩き)	170	アクアエクササイズ(水中歩行、運動など)	183	散歩(ぶらぶら歩き)	167	散歩(ぶらぶら歩き)	196	ウォーキング	231	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	304
3位	筋力トレーニング	139	散歩(ぶらぶら歩き)	135	筋力トレーニング	133	キャンプ	129	ジョギング/ランニング	112	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	144	筋力トレーニング	150	水泳	206
4位	アイススケート	130	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	109	サイクリング	115	バスケットボール	67	水泳	111	筋力トレーニング	115	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	137	ランニング(ジョギング)	150
5位	アクアエクササイズ(水中歩行、運動など)	105	釣り	83	水泳	109	ボウリング	118	筋力トレーニング	106	ボウリング	110	ヨーガ	127	テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球(卓いす子、卓球など)	143
6位	ボウリング	95	水泳	77	登山	77	散歩(ぶらぶら歩き)	108	ヨーガ	91	水泳	107	水泳	125	ゴルフ	123
7位	ウォーキング	69	ハイキング	69	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	97	ハイキング	97	ハイキング	82	釣り	95	ゴルフ(コース)	119	室内運動器具を用いた運動	114
8位	エアロビクスダンス	65	ボウリング	71	ジョギング・ランニング	85	ボウリング	86	釣り	79	登山	86	釣り	114	登山(クライミングを含む)	109
9位	卓いすテニス	59	登山	59	ボウリング	64	ハイキング	64	キャンプ	74	アクアエクササイズ(水中歩行、運動など)	75	登山	108	スキー、スノーボード	103
10位	水泳	51	キャンプ	64	ハイキング	67	ハイキング	67	登山	65	登山	72	ボウリング	104	ボウリング	102
11位			ヨーガ						ボウリング							
	特になし	40.5	特になし	42	特になし	29.1	特になし	50.0	特になし	41.9	特になし	36.9	特になし	18.0	-	-

注 1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

注 2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害者である場合に限定した。

注 3) 笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2012): 成人を対象とした全国調査。

注 4) 文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査」(平成 25 年 1 月): 全国 20 歳以上の日本国籍を有する者が対象。